

2014.8.8 提出 視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ
視察先 土門拳記念館
実施日 平成 26 年 8 月 1 日 午前

施設について

山形県酒田市が所有する「土門拳記念館」は日本最初（1983 年）の写真専門の美術館とされています。さらに、個人の写真記念館としては世界でも唯一ものといわれ誕生したものです。

出身地に土門拳が全作品（約 7 万点）を寄贈して出来た施設です。

作品数が多く、順次公開の方法が取られています。

設計は谷口建築研究所です。

所見

私はこの施設を見るまでは、名称を「土門拳写真館」だと思っていました。郷里が生んだリアリズム写真家の偉業を顕示し、その作品群を紹介する意味合いでの理解でした。その意味では、「土門拳記念館」という名称の方が、より内容を的確に伝えていると思いました。土門拳が巨匠の写真家であることを自明としているものでしょう。

「町田市フォトサロン」は当初、町田市に関わる写真家の作品展示を主要な目的にしていたのですが、今はその作品は皆無です。住民や団体の作品展示場になっています。その奥行を比較しようがありませんが、「土門拳記念館」の施設と作品を見ると、「歴史」の重みが違うという感動をまず覚えました。

「土門拳記念館」の庭内には、友人のイサム・ノグチ氏の「土門さん」があることも記さないといけないことでしょう。さらに、勅使河原宏氏の作品も複数個所に展示され、この記念館らしい雰囲気を出していました。合せて、この建物自体が筑後 40 年に達するにもかかわらず、その古さをまったく感じさせない斬新さも見逃せないことでした。

町田市が今後、この種の施設を造るに際し、自身の街や人の歴史性が世界に（少なくとも、日本全土に）通じる普遍性を持ったことを基本にしたものであってほしいと願うものです。

私は自分が福岡県の出身で、少年期に石炭から石油へのエネルギー革命を見

ています。生まれたのは福岡県筑後地区と言い、その一角に三池炭鉱があります。その閉山を巡って、労資の歴史的な一大闘争があり、多大な犠牲者の発生と住民の県外への移転を生み出した歴史を子どもながらに記憶しています。もちろん、それは三池炭鉱に限ったことで、炭鉱地帯の多くに関係することでした。そうした中で、土門拳は、代表作の一つに、その石炭採掘の別の拠点である筑豊炭鉱を取材した「筑豊のこどもたち」があります。その作品では「弁当を持ってこない子」の原本を見たかったのですが、別の作品群「こどもたち」で満たしました。豊かさと貧しさが同居する今の時代の背景にある姿をリアリズムで表現してされています。単に片方で見せるだけでなく、その両者を見せる手法に先見性があるだけでなく、デジタルの時代になっても高い情報性を保っているのでしょう。